



拍手喝采! 芸能なんでも自慢大会

2月16日、文化センターで2年に1度的那須公民館主催第15回芸能なんでも自慢大会が開催され、16組275人が出場しました。各地域それぞれが、工夫をこらした演劇や踊り、歌、演奏などを生き生きと披露し、会場は常に大盛り上がり。観客から大きな拍手が送られました。



鬼はそと福はうち。保育園に来た鬼と一緒に、自分の中にある悪い鬼も追い出しました (2/3 豆まき 大同保育園)



東陽小学校4~6年生の児童たちが、合唱や総合的な学習について発表しました (2/12 芦野ふれあい発表会 芦野公民館)



蓄音機が奏でる昔懐かしいレコード。独特の音楽に酔いしれました (2/15 レコード鑑賞会 那須歴史探訪館)

落ち着いて対応するために

2月21日、ゆめプラザ・那須で「第12回那須町障がい者福祉を考えるシンポジウム」が開催され、福祉関係者や一般の方37人が参加しました。

第1部の講演では、宇都宮地方気象台防災管理課の宮川良弘氏から、大雨や台風によって起こる災害と防災気象情報について話を聞き、災害時に情報を得ることの重要性を学びました。

第2部では、8グループに分かれ避難所運営ゲーム(HUG)を行いました。ゲームでは、大地震後の黒田原小学校を避難所とする想定のもと、障がい者や妊婦、小さい子どもがいる家族等が避難してきた場合どのように対応するかをグループで考えました。



心も体もリラックス



2月19日、高原公民館で和みのヨーガ教室が開かれました。講師を町地域おこし協力隊の星野瑞季さんが務め、始める前に「リラックスしながら無理せず、心と体同時にほぐしていくことが大切です」と話しました。23人が参加し、体をゆらしたりなでたり伸ばしたりしながら、90分程かけて、ゆっくりと心身を整えました。参加者からは、「気持ち良かった」「スッキリした」との声が聞かれました。